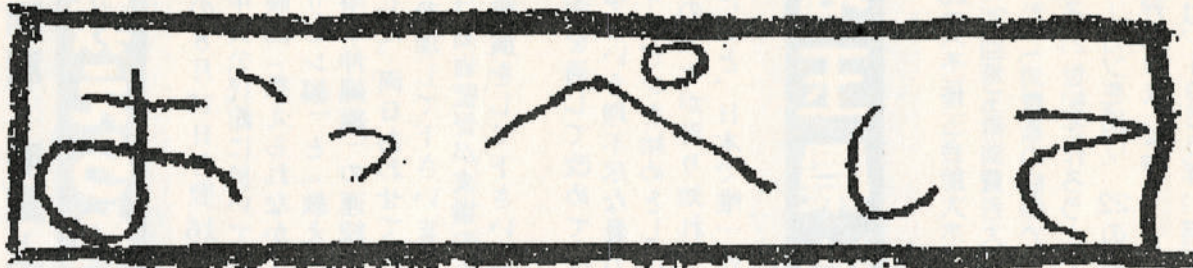


平成12年10月27日発行

事務局 飯能市商工観光課内  
☎ 73-2111 内線 159



## 飯能市消団連の学習会

### フロンガスを回収しては津木さんの話

—平成12年6月15日、青梅市リサイクルセンターにて—

フロンガスによってオゾン層が破壊され、今までオゾン層によって遮られていた宇宙からの強烈な紫外線が地上まで達しています。皮膚ガン、白内障、免疫不全の増加等の私たちが直接こうむる健康被害だけではなく、植物性プラントンの減少、農産物・漁獲への悪影響、炭酸ガス増加に伴う温暖化とその相乗作用による更なるオゾン層破壊等、地球規模の環境破壊が起き始めています。オゾン層を破壊する特定フロンは、国際的規制によって1996年以降は生産されていませんが、フロンガスが20年、30年掛かってオゾン層に到達することから、悪影響が表れるのはこれからとも云えます。そこで、1997年12月に京都で「気候変動枠組条約第3回締約国会議」が開かれ、炭酸ガスの削減等に向けた各国の目標が決められました。議長国であった日本の目標はとても低いレベルのものでしたが、まず、この目標をきちんと達成することが求められています。私たち国民もこれを真剣に見守り、削減に協力して行かなくてはなりません。

こんな地球規模の環境破壊に対して目をつぶってはいられず、7年前に一人で立ち上がったのが宇津木さんです。飯能市消団連では、この宇津木さんにお会いしてお話しを伺おうと、参加者を公募の上、6月15日その仕事場である青梅市リサイクルセンターを訪れました。お会いすると、ご本人はまだ学生だとも思える位若く、細い体のどこにそんな情熱とエネルギーを秘めているのかと思う程の静かな好青年でした。宇津木さんは学生時代に自動車解体のアルバイトをしている時、フロンの放出を目の当たりにして、ものすごいショックを受けたそうです。その後、その事が忘れられず、一旦就職していた会計事務所をやめ、貯金をはたいて開業資金にし、フロン回収業「宇津木商店」を立ち上げたのです。

最初は、何と、お金を出してフロンを回収させてもらったのだそうです。でも、当然ですが、資金が底をつき、休業状態に。そんな時にNGOの活動に参加して、今後の方針を摸索していたと話されました。そして、体当たりで青梅市の環境課に何度も足を運び、話を聞いてもらったそうです。そこに、理解のある行政の方がいらつしやったこともあったのでしょう。最初は無償でしたがそのうちに市の予算が付き、今では、フロン回収は行政の仕事として位置づけられています。お話を伺って、宇津木さんの純粋な思いが形となって実現したことには、本当にすばらしく、うれしいことだと感じました。皆さんもご存知かと思いますが、フロンガスは主に冷蔵庫やクーラーの冷媒として使われています。特定フロンの生産は禁止されて、今は代替フロンが使われていますが、宇津木さんのお話では、この代替フロンも環境破壊の原因物質になると聞いてびくびくりしました。結局、特定、代替に拘わらず徹底した回収と、無害化する処理が必要になるということでした。

回収作業を見学しながらのお話で印象に残ったのは、冷蔵庫の冷媒として使われているフロンガスの量より、冷蔵庫の側面の断熱材（発泡スチロール）の中に入っているフロンガスの量が4倍もあるということでした。これを回収するためには、1台1億円もする回収機が必要で「宇津木商店」には手の出せない額です。でも、ドイツでは、そこまできちんと回収しているという事でした。

こうして回収されたフロンガスは1本に20kg入るボンベに充填して、横浜の処理業者に持っていき、そこで破壊処理され、無害なものになるそうです。

私たちに出来る具体的な行動としては、冷蔵庫や車を買換える際に、フロン回収をきちんと依頼して欲しいと話されていました。

私たちの飯能市でも、平成7年から冷蔵庫、エアコンからのフロンガスの回収をクリーンセンターで行っています。その量は年々増えていて、平成11年度の回収量は256kgだそうです。

宇津木さんは、昨年、「オゾン層が破壊されて紫外線が増えると、カエルが減る」という実験結果を発表しましたが、国内でのこうした専門家に評価されたそうです。宇津木さんは色々なところでお話をされるそうですが、そんな時「よくやりませぬ。」と感心されるそうです。「でも僕は『一緒にやってください』と云いたいのです。」と話されました。本当に、宇津木さんのような人だけにまかせておいて良いわけがありません。消費者である私たち一人一人が自覚して、回収を実行していかなくては、環境問題は解決しないでしょう。

### 講演会のご案内

日時：11月25日(土) 09:30~11:30  
場所：飯能市市民会館 202号室  
演題：「今、地球上では」  
今、この瞬間にも森は消え、二酸化炭素は増え続け、オゾン層は壊れ、温暖化が進んでいます。21世紀の地球を私たちが生き続けて行ける場にする為に、私たちが今出来ることは？  
講師：山田 征さん (プロフィール)  
20数年前から、食の問題(学校給食を安全なものに)、環境問題(森林保護のための雑古紙で作ったトイレトペーパーの普及)、人権問題(阪神大震災被災者の救援活動、ホームレスの人への支援活動)、等々に取り組み、自ら実践する、自称「肩書きのないふつうのおばさん」です。

皆様の当日のご来場をお待ちしております。

# 「教えられなかった戦争」

終戦の日の8月15日と翌16日の夕方より、中央公民館に於いて、高岩仁監督の映画「教えられなかった戦争—フリピン編」と「教えられなかった戦争—沖縄編」の連続上映会を行いました。両日あわせて約90名程の方が参加して下さいました。16日には高岩監督が来場の上、資料を基に講演をして下さいました。

2本の映画を通して改めて知ったのは、戦争という理不尽な暴力によって、フリピンを始めとしたアジアの多くの人々が計り知れない被害を受けたこと、日本で唯一の地

上戦の舞台となった沖縄が戦後もアメリカの占領下で土地を奪われ続けてきたこと、そして先祖伝来の土地を取り戻す農民の闘いが続けられてきたことです。これら多くの戦争の犠牲者の存在の重さや苦しみが胸に響き、私たちは決してこの過去を忘れてはいけなさと強く感じました。

そして、高岩監督のお話と、ご持参頂いた資料によって、日本の明治以来の戦争のどれもが、深く経済と結びついてきたことに気付かされました。戦争の陰には、常に多くの財閥を始めとした経済界の動きが

寄り添い、戦争の都度その利権を大きく伸ばしてきたという事実を知りました。今また、特に80年代後半から現在にかけて、多くの日本企業がアジアに進出する中で、アジアの人々の土地を奪い、生計の道を失わせるような、経済的侵略とも云えるような場面がしばしば見られます。「日本のODAが私たちをどんなに苦しめているか、日本人たちにも知って欲しい。」と訴えていた映画の中のフリピン人民生委員の顔が忘れられません。

私たちが消費者は、その日々の消費活動の一つ一つがアジアや世界の人々の生活と密接につながっている点を、強く自覚して暮らしてゆくことが大切だとつくづく感じさせられた両日でした。

## 埼玉県消費者大会に参加して

さる9月28日(木)埼玉会館大ホールにおいて、第36回埼玉県消費者大会が開催されました。「消費者の協同で、安心してくらせる21世紀を作ろう」という大会スローガンを掲げ、22の消費者団体の参加がありました。

消費者大会は、1965年11月に第一回が1300名の参加で開催されました。それから今日まで、毎年多くの消費者団体が、自分たちの生活のいろいろな問題について、話し合い交流しあつて、消費者生活を支えて来ました。また「対県要請書」をもとに、私たち消費者の願いや要望を、国へ働きかけると同時に県行政に反映して来まして、この消費者大会は、それらを実現してゆく上で大きな力となっているのです。

これだけ長期にわたって1000名

規模の消費者の参加で、続けられてきている大会は、他県にはなく、埼玉県の消費者運動の大きな力であり、貴重な財産である。大切に受け継ぎ、発展させて行く必要があると、事務局長の伊藤氏も語っておられました。

今回は、①食の安全について、②医療・介護・福祉について、③消費者行政について、④くらしについて、⑤子供の健全な発達について、⑥食料の自給率の向上について、⑦環境について、⑧平和な社会について、と8項目を要請しました。

全体会では、活動報告パフォーマンスとして、(1)「食の安全を守る取り組み」(2)「消費者契約法(寸劇)」が披露され、記念講演として法政大学教授の花原二郎氏による「明るい21世紀はくるのか?—市民の力が

社会をつくる時代」と題したお話がありました。その中で、—20世紀は戦争の世紀であり、人口の急増、食糧問題の深刻化、石油危機、貧富の差の拡大など、さまざまな問題が持ち上がった。21世紀は高生産性、貧富の差の縮小をめざし最低生活を守るヨーロッパ型の協同経済が理想である。しかし日本はそれと逆行するアメリカ型の完全自由競争を押し進めようとしている。比較してみても良い方を選択することが望ましい。

21世紀は、市民の力が新しい世界をつくって行く。—とまとめておられました。

午後からは、それぞれの会場に分かれ、現在私たちを取り巻くさまざまな問題について分科会が開かれました。とても有意義な消費者大会でした。

## 西部地区消費者団体の

### 交流会と講演会が開かれました

—西部地区消費者団体活動推進世話人会—

西部地区消費者団体活動推進世話人会と西部生活センター(川越市)共催の消費者団体の交流会・講演会が7月10日に川越地方庁舎にて行われました。

《午前の部》では、「ごみ問題の解決にむけて」をテーマに各団体の発表がありました。

飯能市・消団連は「市のゴミ処理の現状について」と題し、①市へゴミを出す、殆どのゴミが最終処分場に運ばれ埋められること

②ひとりひとりが、グリーンコンシューマー(緑の消費者)を目指すべきこと

③最終処分場を増やせば、山や川の環境破壊と飲み水の汚染を招くことを市民に伝え、共通の認識とさせること

④今後、市民、行政、事業所、店が一体となり循環型社会作り、街作りを目指さない限りゴミ問題は解決出来ないこと

等の意見発表を行いました。

《午後の部》は、『市民ネットワーク』の兼松秀代氏を迎えて、

「放射能のゴミはいらない」をテーマに以下の内容の講演が行われました。

□日本各地にある原子力発電所から発生する「高レベル放射性廃棄物」の処分法が、私たち消費者の多くが知らないまま国会で僅か10日間の審議で3月14日に成立した。

□青森県六ヶ所村ですでに処分地となっている核のゴミ処分法は、活断層、地殻変動帯のデータを重視することなく、地層処分だけをただ一つの方法と決めてしまったところに、安全性の疑問がある。

□概要調査地区等の選定は処分実施主体(電気事業連合会、日本原燃等)であり、処分地を決定するのは、都道府県知事や当該市町村長ではなく、『国』であることから、私たちひとりひとりの暮らしと地域環境を守ることは困難である。

□1万年から数万年の安全を考へなくてはならないのが原発のゴミ問題である。

## 《はんのう生活祭》

日時 11月12日(日) 午前9時30分〜午後2時30分  
場所 市役所駐車場

今年も「消団連」として参加します。テントを出し、各参加団体の宣伝活動等を行っています。お茶とお菓子の無料休憩コーナーも準備して、皆様のお越しをお待ちしております。

どうぞお気軽にお立ち寄り下さい!